JARA NEWS
August 2018, No. 126
from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp
Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: Shinawa Bldg. 1-2-2-7F,
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0027
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690

JARAも会員支援業務に着手、個社対応難しい事案をサポート

JARA（日本自動車リサイクラーズ・アライアンス、北島宗尚社長）は、「平成30年7月豪雨」への対応として会員に対する業務支援に着手する。今後、引取り車両が増大する可能性も見込まれる中で、個社対応では難しい事案などについてグループを上げてサポートする計画だ。

9日には会員の被災状況を確認。一部の会員で事務所の冠水被害などが発生したが人的被害はなかった。現在、スタッフを派遣し現地調査に入っている。今回の災害は被害地域が広範囲に及ぶため、ブロック単位での支援を中心にしながらも、今後は「出てくる案件に対してどのような体制が必要なのかを検討し準備していく」（北島社長）と話している。　　(日刊自動車新聞7月12日)

JARA、次世代車セミナー開催

JARA（日本自動車リサイクラーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）は12、13日の２日間、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所で「JARA次世代自動車セミナー」を開催した。燃料電池車（FCV）や電気自動車（EV）、ハイブリッド車（HV）など次世代自動車の走行試乗を加えた次世代型セミナーの第一弾。次世代自動車の普及状況や先進安全技術のエーミング（機能調整）作業、先進安全自動車（ASV）のメンテナンス作業などについての講習も行い、１０人の参加者は次世代自動車に対する作業ノウハウの習得に努めた。

同セミナーはASVや先進安全技術に関する整備の基礎知識を習得し、多くの部品生産につなげるとともに、JARA会員の顧客である整備工場に提案販売を行うためのスキル習得を目的にしている。

初日は次世代自動車の基礎知識として車両の種類や特徴、国が掲げるロードマップの解説などを行った。日本ではＨＶの普及が進む一方で、ＥＶは遅れ気味であることを指摘。ただ将来的にFCVやEVの時代が到来した場合、リサイクル業界における影響として「エンジンの生産ができなくなる可能性もある」（講師）ことなど解説した。また、水素社会の実現に向けた各業界の取り組み状況なども紹介した。

座学講習後には実車を使った走行テストも行った。参加者はトヨタ自動車「ミライ」「プリウスPHV」、日産自動車「リーフ」、ホンダ「フィットＨＶ」、三菱自動車「アウトランダーPHEV」を試乗。各車両の動力性能やクルーズコントロール、車線逸脱警報など各種システムの作動状況を体験した。

２日目はASVに関連した実習として、先進安全技術の検知デバイスとして使用されるカメラやミリ波レーダーのエーミング作業を講習。低速自動ブレーキやアクセル踏み間違い防止装置、駐車支援装置などを作動体験も行った。また、次世代自動車が入庫した際に必要となるブレーキフルード交換について、正しい作業手順などを解説した。

(日刊自動車新聞7月19日)

JARAグループ
生産管理者向けに研修
部品品質と生産の流れ

JARAグループ（土門志吉会長）は６月２０～２２日の３日間、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センターで「生産管理者ステップ１研修会」を開催した。参加した１０人は、リサイクル部品の品質管理と生産、車両の修復歴の見分け方などを学び、スキルアップに結びつけた。

研修会の初日は、基本となるJARAが定めるリサイクル部品の商品品質、使用済み自動車の入庫から部品生産までの業務の一連の流れの効率化やフロント業務について学んだ。２日目は、外板部品の商品登録に関して、キズや補修履歴など形状確認のポイントの解説を受けた。また、車両の修復歴の基礎知識と実車を用いた修復歴の確認などを行い、知識を深めた。最終日は試験を実施し、参加者に修了証が手渡された。

今回の研修会は、グループの会員事業者に修復歴がある車両が入庫した際、正しく車両の状態を判断してリサイクル部品の流通に反映させることを目的としている。車体整備事業者のリサイクル部品に対する要望は多様化しており、主に外板部品について的確に部品情報を提供できる体制を整える。また、会員事業者が、修復歴がある使用済み車について部品生産が可能かどうかの判断基準を明確にして、リサイクル部品の登録点数拡大につなげる。

(日刊自動車新聞7月5日)

行政全体で早期の復興を支援する（イメージ）

国交省、西日本豪雨で特例措置 旅客輸送や車検関連など

国土交通省は、西日本を中心とする豪雨による被害者の権利保全のため、自動車関連の許可などで９本の有効期間延長措置を実施する。この中には、道路運送法の旅客輸送関係のほか、道路運送車両法の回送運行許可、限定車検証や保安基準適合証などの交付に関するものも含まれる。ただ、車検の有効期間延長に関しては、道路運送車両法で別途の規定があるため、今回の一連の措置には含まれていない。自動車関連行政全体で早期の復興を支援する。

車両法関係では、被災地域を運行の経路に含む車両に限定して、臨時運行の許可を受けた車両の運行期限を11月30日まで延長する。また、回送許可に関しては被災地域に主たる営業所を持つ事業者の回送許可期限を同じく11月30日まで延長する。

ユーザー車検などで車両を車検場に持ち込んで検査を受けた結果、車検に合格しなかった際に発行される限定車検証については、各運輸支局長が公示する新たな有効期間満了日まで交付する。また、保安基準適合証と同適合標章についても限定車検証と同様の扱いとする。

自動車登録令関係では、災害発生日前の３カ月以内に作成された印鑑に関する証明書を添付して行う申請書の提出と、登録事項等証明書の交付請求期限を11月30日まで延長する。

道路運送法関係では、一般貸切旅客自動車運送事業の許可で11月30日まで延長する。また、自家用有償旅客運送者の登録でも同日まで延長する。さらに、タクシー業務適正化特別措置法では、登録実施機関の登録に関しても同日まで延長する。

6月28日以後に変更届出などの義務の履行ができなかった場合、それが今回の豪雨被害によるものであると認められた場合は、行政上や刑事上の責任は問われないという。

(日刊自動車新聞7月20日)

JARC、4～6月の ELV引取台数は3.1%増

自動車リサイクル促進センター（JARC）がまとめた２０１８年度第１四半期（4～6月）の使用済み自動車（ELV）の引取台数実績（確報）は、前年度比3・1%増の88万2千台だった。鉄スクラップ価格が若干の下振れ傾向にはあるものの高値維持が続いていることや軽自動車を中心とする堅調な新車販売が下支えしたことでプラス実績を確保。JARCは「前年度からの増加傾向が続いている」と分析している。

(日刊自動車新聞7月19日)

スキャンツール補助金、 鈑金・用品業界も対象

■整備士在籍が条件、利用拡大に期待

国土交通省は、24日から公募を始めるスキャンツール補助金で、自動車分解整備事業者と優良自動車整備事業者に加え「整備士が在籍し、点検整備作業を行う自動車関連施設」を補助対象に追加した。法定点検や車検はもちろん、オイルやバッテリー交換などを行う車体整備工場や自動車用品店、タイヤ販売店、電装整備事業者などにも補助対象が広がった。

ＯＢＤ車検にスキャンツールは不可欠になる（イメージ）

国交省は2013年度からスキャンツール補助金を始め、毎年２億円ほどの予算を充ててきた。今年度の公募期間は7月24日から10月31日までで、補助上限額は１事業場当たり15万円。申請額や補助金の交付状況はウェブサイトで毎日更新する予定だ。補助を受けた事業者は20台以上にスキャンツールを使用して診断結果を報告する必要がある。

国交省が補助金を出すのは電子化が進んだ車両の点検整備にスキャンツールが欠かせなくなってきたためだが、補助対象の拡大は「車載式故障診断装置（OBD）検査を見すえたもの」（自動車局整備課）だ。国は24年からOBDを活用した検査制度を始める予定。検査には特定の故障コード（DTC）を読み取る「法定スキャンツール」が必要で、車検を手がける事業者にとってスキャンツールは不可欠な機器になる。

補助対象の拡大に整備機器業界も期待する。㈱インターサポートは「スキャンツールを必要としているが補助対象にならず、購入に至らなかった事業者が申請できるようになることでスキャンツールの新たな広がり、可能性に期待している」と話す。大手機械工具商社も「スキャンツールを持つ工場のアップデートも期待できる。今後は車体整備事業者もスキャンツールが不可欠になるだけに幅広く提供していきたい」と意気込んでいる。

(日刊自動車新聞7月11日)

CO2削減数値（SPLシステム）

リユースパーツ使用によるCO2削減効果参考値 平成30年06月

2,281t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方に基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

Asian Automotive Environmental Forum

11th in India

From Wed. 31st October to Fri. 2nd November 2018

Conference theme:

AUTOMOTIVE RECYCLING IN INDIA PATHWAY TO THE FUTURE – TOWARD SUSTAINABLE SOCIETY –

Holiday Inn New Delhi International Airport

Registration Fee : US$200 per person

AAEF

Contact : jara@npo-jara.org(Japan Automotive Recyclers Association)

KOBELCO

We Save You Fuel
Achieving a Low-Carbon Society

Dismantling process flow chart

How the Car Dismantling machine works

1. Receiving and evaluating cars
Incoming vehicles tested on dynamometer to check engine condition

2. Collecting fuel, fluids and chlorofluorocarbon gas
Remove fluids such as fuel, various types of oil and chlorofluorocarbon gas

3. Parts collection
Efficiently collect reusable parts
Tyres, Doors, Batteries, Seats, Bonnets

4. Collecting undercarriage parts and engines
The car is turned to safely collect engine, exhaust system and suspension parts
Exhaust, Engine, Suspension

5. Car dismantling process
After pre-processing, the car is sorted into raw components such as ferrous, non-ferrous and plastics
Cu Copper 63.546; Al Aluminium 26.982; Harnesses; Motors; Radiator

5. Processes after removing parts
Once thoroughly cleaned, the parts become good quality recycled parts

6.Volume reduction processes
After treating, the scrap cars are cut up and crushed or pressed into materials that meet industry needs
Blocks of material can then be distributed to smelting plants for recycling

The Evolution of car dismantling industry by Kobelco

Four times* the vehicle dismantling capability compared with hand dismantling.
*In one day (Kobelco test figures)

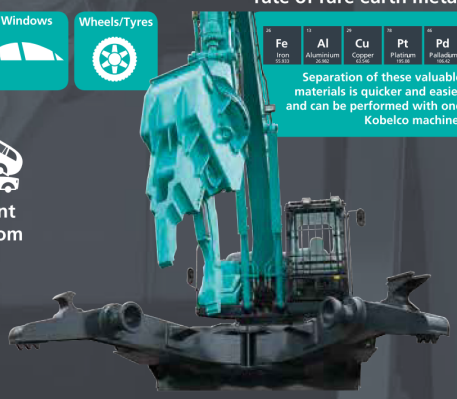
15 vehicles >
One operative working by hand.

60 vehicles >
One operative in a Kobelco Car Dismantling machine.

Engine, Catalytic Agents, Body Steel, Seats, Windows, Wheels/Tyres, Sus pension, Radiator, Brakes, Front & Rear Bumpers, Transmission, Doors, Harnesses

The machine's special attachment is designed to strip materials from End-of-Life Vehicles (ELV) safely and thoroughly

Improved recovery rate of rare earth metals
Fe Iron 55.845; Al Aluminium 26.982; Cu Copper 63.546; Pt Platinum 195.08; Pd Palladium 106.42
Separation of these valuable materials is quicker and easier and can be performed with one Kobelco machine.



コベルコ建機株式会社 www.kobelco-kenki.co.jp/	For Japan
成都神鋼工程机械(集团)有限公司 www.kobelco-jianji.com/	For China
(주)삼정건설기계 www.samjung-kenki.co.kr/	For Korea
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC. www.kobelco-usa.com/	For North America
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD www.kobelco.com.au/	For Australia
KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V. www.kobelco-europe.com/	For Europe
FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD. www.ffg-tw.com/	For Taiwan